

「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性について」報告書構成（案） 新旧対照表

(新)	(旧)
<p>1. はじめに</p> <p>2. 東海地震対策と観測体制の現状等</p> <p>(1) 東海地震対策の背景と現状</p> <p>(2) 東海地震予知に係る観測及び南海トラフ周辺の観測の現状と計画</p> <p>(3) 東海地震対策大綱及び東南海・南海地震対策大綱の見直し</p> <p>3. 地震予測に対する国際的な認識と取り組み</p> <p>(1) 2009年イタリア・ラクイラの地震と実用的地震予測に関する国際委員会報告 [Jordan et al., 2011]</p> <p>(2) その他の試み</p> <p>4. 地震の前駆すべりと考えられた事例等</p> <p>5. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震から得られた科学的知見</p> <p>(1) 地震活動の変化</p> <p>(2) 地殻変動</p> <p>(3) 電離層及び大気圏関係の現象</p> <p><u>(4) 地下水の変化</u></p> <p>6. 地震モデルとシミュレーションから得られた科学的知見</p> <p>(1) 地震モデルによる前駆すべりの検知可能性の違い</p> <p>(2) シミュレーションから見た予測可能性</p> <p>(3) 地震の規模の予測</p> <p>7. 南海トラフ沿いの大規模地震の規模と発生時期の予測可能性に関する科学的知見</p> <p>(1) 規模の予測可能性</p> <p>(2) 発生時期の予測可能性</p> <p><u>8. 震源域で見られる現象と防災への活用を視野に入れたその評価</u></p> <p><u>9. 今後のモニタリングと調査研究の方向性</u></p> <p><u>10. おわりに</u></p>	<p>1. はじめに</p> <p>2. 東海地震対策と観測体制の現状等</p> <p>(1) 東海地震対策の背景と現状</p> <p>(2) 東海地震予知に係る観測及び南海トラフ周辺の観測の現状と計画</p> <p>(3) 東海地震対策大綱及び東南海・南海地震対策大綱の見直し</p> <p>3. 地震予測に対する国際的な認識と取り組み</p> <p>(1) 2009年イタリア・ラクイラの地震と実用的地震予測に関する国際委員会報告 [Jordan et al., 2011]</p> <p>(2) その他の試み</p> <p>4. 地震の前駆すべりと考えられた事例等</p> <p>5. 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震から得られた科学的知見</p> <p>(1) 地震活動の変化</p> <p>(2) 地殻変動</p> <p>(3) 電離層及び大気圏関係の現象</p> <p>6. 地震モデルとシミュレーションから得られた科学的知見</p> <p>(1) 地震モデルによる前駆すべりの検知可能性の違い</p> <p>(2) シミュレーションから見た予測可能性</p> <p>(3) 地震の規模の予測</p> <p>7. 南海トラフ沿いの大規模地震の規模と発生時期の予測可能性に関する科学的知見</p> <p>(1) 規模の予測可能性</p> <p>(2) 発生時期の予測可能性</p> <p>8. おわりに</p>